

# 視線一致型テレビ会議システムにおける遠隔面接試験の実用性について

伊藤綾\*1, 永岡 慶三\*2, 米谷雄介\*3, 谷田貝雅典\*1

\*1 共立女子大学文芸学部, \*2 早稲田大学人間科学学術院, \*3 香川大学創造工学部

## About the utility of remote oral examination in Eye-contactable Video Conferencing System

Aya ITO\*1, Keizo NAGAOKA\*2, Yusuke KOMETANI\*3, Masanori YATAGAI\*4

\*1 Kyoritsu Women's University, School of Arts & Letters

\*2 Waseda University, Faculty of Human Sciences

\*3 Kagawa University, Faculty of Engineering and Design

あらまし：本研究では、対面環境、視線が一致しないテレビ会議システムを利用した遠隔環境、視線一致型テレビ会議システムを利用した遠隔環境の3環境について、一般的に実施されてる9つの面接試験を試行し、面接試験に関する客観評定と主観評定を取得する。得られた評定値を多変量解析手法により、比較分析し、9形式の面接試験に対し、3環境の有効性をそれぞれ評価し、遠隔面接試験の実用性を明らかにする。

キーワード：視線一致、テレビ会議システム、遠隔教育、面接試験

### 1. はじめに

近年、企業が人材採用にインターネットを活用することはごく一般的になっている。例えば、パソコンやスマートフォンなどを活用し、動画選考やリアルタイムによるテレビ電話選考など、文字だけでは伝わりにくい学生の人柄や熱意を、対面し面接する前にくみ取ろうという試みがなされている。例えば、採用面接においてテレビ会議システムを利用することで、これまで書類選考で絞り込んでいた海外在住の学生に対して、表情を見ながら会話する面接が可能となった<sup>(1)</sup>。しかし、現行のテレビ会議システムは、対話者同士の視線が一致しないことから、対面し面接する場合と比べ、不自然な面接環境である。よって、本研究では、普及しつつあるテレビ会議システムによる遠隔面接の実施に際して、視線が一致しない問題点を解決した視線一致型テレビ会議システム<sup>(2)</sup>を導入し、視線が一致する双方向遠隔面接環境による多様な対話型面接を施行し、そのメリットやデメリットを検証し明らかにすることを目的とする。

### 2. 視線一致型テレビ会議システムについて

図1に、本研究で利用する谷田貝ら<sup>(2)</sup>の開発した視線一致型テレビ会議システムの構成を示す。本システムは、カメラの撮影光軸及びモニタ面は床に対して水

平であり、ハーフミラーはモニタ面から斜め45度に傾け設置されている。カメラの位置は、映像の中心に撮影光軸がくるようにハーフミラー裏側に設置されている。本システムは、映像の中心に対話者の顔がくると映像と撮影光軸の視差が0度に近づき、視線が良く一致するものである。

### 3. 研究方法について

本研究では、共立女子大学において対面環境および2つの遠隔環境をととのえ、表1に示す代表的な対話型模擬面接を実施する。2つの遠隔環境は、現行の視線が一致しないテレビ会議システムを利用する環境と、図1に示す視線一致型テレビ会議システムを利用する環境である。以上の3つの環境により、表1に示す各対話型模擬面接を実施し、先行研究<sup>(3)</sup>を参考にした試験官による面接採点（これを客観評定とする）と、先行研究<sup>(4)</sup>を参考にした受験者へ面接のやりやすさ

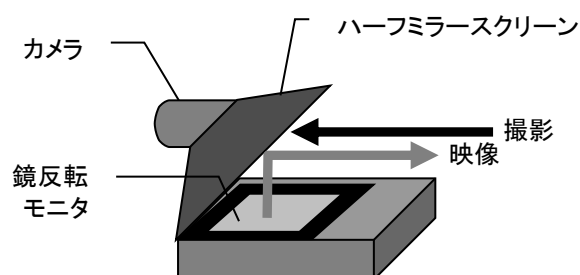


図1：視線一致型テレビ会議システムの構成<sup>(2)</sup>

表1 対話型面接試験実施内容

個人面接	<p><u>一問一答形式</u></p> <p>あらかじめ用意した同一質問を、試問し、回答を評価する。</p>
	<p><u>雑談型形式</u></p> <p>あらかじめ用意した共通話題から対話を開始し、会話のキャッチボールにより人物評価を行う。</p>
プレゼンテーション	<p><u>自己PR型</u></p> <p>試験官から試問するのではなく、受験者から自由な表現方法で自己PRを行い、その内容に対して人物評価を行う。</p>
	<p><u>テーマ事前発表型</u></p> <p>事前に設定された共通テーマに沿って、準備をした上で自分の考えを試験官に発表し、その内容に対して人物評価を行う。</p>
	<p><u>テーマ未発表型</u></p> <p>受験者にその場で共通テーマを伝え、事前準備無しで、自分の考えを試験官に発表し、その内容に対して人物評価を行う。</p>
グループ面接	<p><u>一問一答形式</u></p> <p>あらかじめ用意した同一質問を、順に試問し、回答を評価する。</p>
	<p><u>自己PR型</u></p> <p>試験官から試問するのではなく、順に指名し、受験者から自由な表現方法で自己PRを行い、その内容に対して人物評価を行う。</p>
	<p><u>ディスカッション形式</u></p> <p>あらかじめ用意した議論テーマを提示し、受験者同士でディスカッションを行い、その内容により人物評価を行う。</p>

に関するアンケート（これを主観評定とする）を実施し、面接試験に関する客観評定と主観評定を取得する。得られた客観評定と主観評定を多変量解析手法により、比較分析し、各形式の面接試験に対し、対面環境、視線が一致しないテレビ会議システムを利用した遠隔環境、視線一致型テレビ会議システムを利用した遠隔環境の有効性を評価し、その実用性を明らかにする。

#### 4. おわりに

本研究では、共立女子大学の学生に研究協力を依頼する計画であるが、学外（他大学や高校など）との交流も複数あることから、これを通じて広く被験者を検討する。

#### 謝 辞

本研究は平成 28 年度科学研究費補助金基盤研究(C) (課題番号:16K01126)の補助によるものである。

#### 参 考 文 献

- (1) 高橋秀和 “会議の枠を超えるビデオ会議 製品・サービスも多様化”，日経コンピュータ，PP. 64-71, 2001
- (2) 谷田貝雅典，坂井滋和 “視線一致型及び従来型テレビ会議システムを利用した遠隔授業と対面授業の教育効果測定” 日本教育工学会論文誌，vol30, no. 6, pp. 69-76, 2006.
- (3) 今城 志保 “就職面接の評価内容整理のための概念的枠組みの提案と検討” 東京大学 博士論文，12601 甲第 29794 号，2013
- (4) “入札時のヒアリング 棒読みでなく自分の言葉で技術をアピール”，日経コンストラクション，PP. 36-40, 2011
- (5) “遠距離シューカツ、秋大がテレビで支援”，『朝日新聞』2014. 4. 18 朝刊